

#3510-E

RESTRICTED

*Not Available to Defense*



公文別錄  
物資動員計畫等關係書類

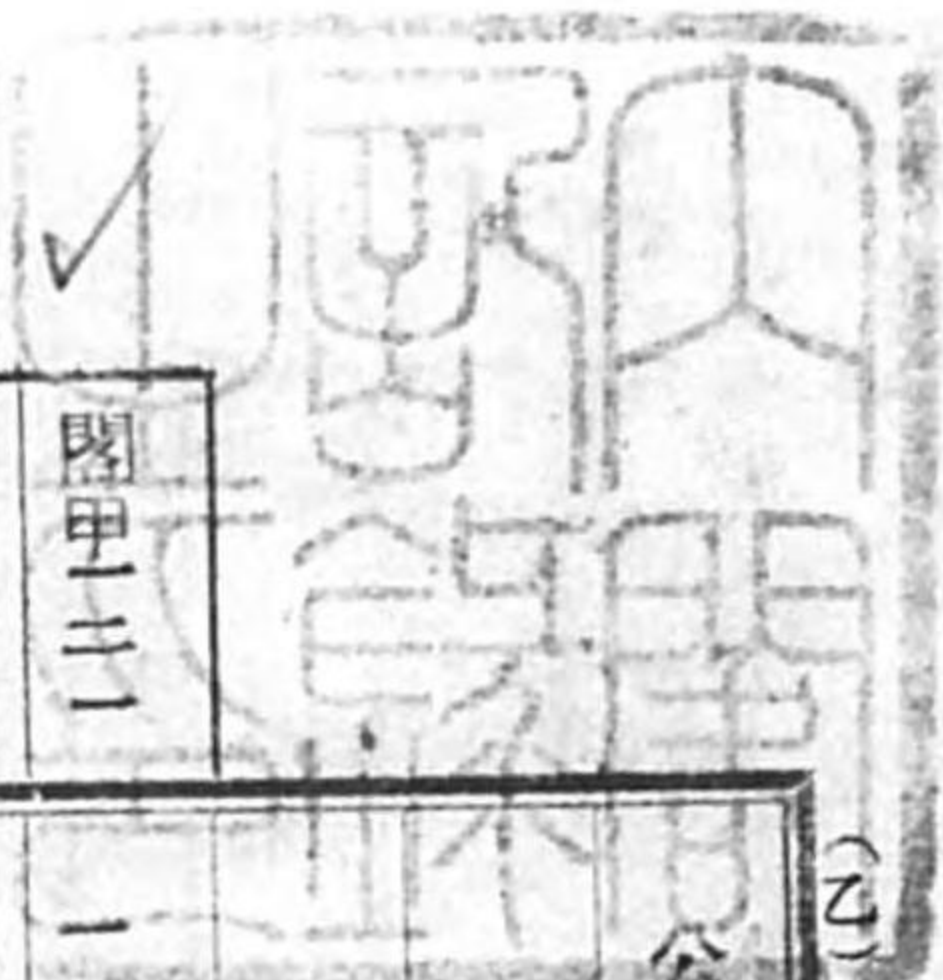
四



公文別錄  
物資動員計畫等關係書類

四





二二六	二二四	二二六	二二一	二一〇	閣甲二二	公文別録
一 昭和十五年交通動員實施計畫綱領ニ關スル件	一 昭和十五年勞務動員實施計畫綱領ニ關スル件	一 昭和十五年貿易計畫綱領ニ關スル諒解事項	一 昭和十五年貿易計畫ニ關スル件	一 昭和十五年物資動員計畫ニ關スル件 前卷	一 昭和十五年科學動員實施計畫綱領及閣議諒解事項ニ關スル件	物資動員計畫等關係書類 四 昭和十五年
七一八	七一六	七、五	六、九	六、九	四月一日	閣議決定
五	四	三	二			一

内容官房已録果







極秘

閣甲第一三一號

案起

昭和十五年四月十一日

閣議決定 昭和十五年四月十二日施行  
裁可昭和 年 月 日

內閣書記官

總理大臣

內閣書記官長

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

遞信大臣

厚生大臣

內務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙企畫院總裁上申  
昭和十五年度科學子動員實施計



畫綱領及閣議諒解事項ニ関ス

ル件

右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年四月十二日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年四月十一日企畫院上申第八四號



ヲ以テ上申ニ係ル昭和十五年度科學動  
員實施計畫綱領及閣議諒解事項ニ  
關スル件上申、通閣議決定相成候

昭和十五年度科學動員實施計畫綱領及閣議諒解事項ニ關スル件

閣議決定相成候

内閣



企書院上申第八四號

昭和十五年四月十一日

主任 科學部 藤澤技師

企書院總裁 竹 內 可



內閣總理大臣 米 內 光 政 殿

昭和十五年度科學動員實施計畫綱領及閣議諒解事項ニ關スル件  
昭和十五年度科學動員實施計畫綱領及閣議諒解事項別紙ノ通閣議決定  
相成様致度此段及上申候

閱 甲 一 二 一

內 閣

日本標準規格 B5 判

IMT. 656.





昭和十五年度科學動員實施計畫綱領

企 畫 院	昭和十五年四月九日	企計G科〇〇三號 小番號 1 號
-------------	-----------	---------------------

第一章 總 則

第一 昭和十五年度科學動員ハ本綱領ニ準據シテ之ヲ實施スルモノト

ス

第二 本綱領ノ目的ハ昭和十四年六月十六日閣議決定「昭和十五年度

以降國家總動員計畫設定方針」ニ基キ長期建設ノ完成ヲ目標トシ國

防ノ強化竝ニ日滿支資源ノ科學的開發利用ニ依ル自給自足ノ確立ヲ

主眼トシテ科學研究ヲ振興統制スルト共ニ其ノ實用化ヲ促進シ産業

ノ科學的振興ヲ圖ルニ在リ

第三 本綱領ニ基キ關係各課ハ昭和十五年度科學動員實施計畫設定要



領ニ基ク各廳實施計畫ヲ設定シ企畫院ニ提出スルモノトス

第四 不足資源ノ科學的補填ニ關スル事項ニシテ科學審議會ノ審議ヲ經タルモノニ付テハ原則トシテ其ノ答申ニ基キ之ヲ設定スルモノトス

第五 研究者ノ養成、配當等之ガ充實ニ付テハ人員動員委員會ト密接ナル連絡ヲ保持スルモノトス

第六 本綱領ノ實施ニ當リテハ科學動員委員會ニ於テ關係各廳ノ密接ナル連絡ヲ保持スルモノトス

## 第二章 科學研究統制方針

第七 科學研究ノ統制ハ研究事項ニ依リ之ヲ行フモノトス

第八 應用研究ニ在リテハ國家總動員上必要ナル研究ノ促進ヲ圖ルモノトス

第九 學術研究ハ本章ノ統制外トスルモノ之ガ振興ニ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス



第十 國家總動員上必要ナル研究中左記ニ該當スルモノヲ重要研究ト

- ス 自給原料ニ依ル重要金屬ノ生産ニ關スル研究
- イ 自給原料ニ依ル重要化學品ノ生産ニ關スル研究
- ロ 燃料ニ關スル研究
- ハ 探鑛ニ關スル研究
- ニ 各種合金及特殊鋼ニ關スル研究
- ホ 農林畜水産資源ニ關スル研究
- ヘ 代用品ニ關スル研究
- ト 精密機械ニ關スル研究
- チ 化學機械、<sup>畜</sup>山機械及農林畜水産機械ニ關スル研究
- リ 電氣機械ニ關スル研究
- ヌ 航空機、自動車、鐵道車輛及船舶ニ關スル研究
- ル 電氣通信ニ關スル研究
- ヲ



ワ 防空ニ關スル研究

カ 防疫ニ關スル研究

ヨ 兵器ニ關スル研究

タ 其ノ他科學動員ノ目的達成ニ必要ナル重要研究

第三章 研究機關ノ連絡統制

第十一 各廳ハ所屬ノ研究機關ニ於テ重要研究ノ促進ヲ圖ルモノトス

第十二 各廳ハ所屬ノ研究機關ニ於ケル國家總動員上必要ナル研究事

項及豫算ノ概要ヲ企畫院ニ報告スルモノトス

第十三 企畫院ハ各廳ノ報告ヲ整理シ關聯アル研究ニ付テハ連絡會ヲ

設ケル等ノ方法ニ依リ綜合的ニ連絡調整シ之ガ振興ヲ圖ルモノトス

第十四 教育機關ニ於ケル研究中學術研究ハ本章ノ適用外トスルモノ然

ラザルモノハ第十二及第十三ニ準ジ連絡統制ヲ圖ルモノトス

第十五 各廳ハ公共團體及民間ノ研究機關ニ於テ國家總動員上必要ナ

ル研究ノ促進ヲ圖ラシムル爲必要ナル措置ヲ講ズルモノトス



第四章 研究補助獎勵ノ統制

第十六 試験研究ニ對スル各廳ノ補助獎勵金ハ重要研究ニ優先的ニ交付スルモノトシ之ガ企畫及實施ノ概要ニ關シテハ企畫院ニ報告スルモノトス

第十七 試験研究ニ對スル公共團體ノ補助獎勵ハ第十六ニ準ジ各廳之ヲ統制スルモノトス

第十八 試験研究ニ對スル民間團體ノ補助獎勵ノ連絡統制ヲ圖ル爲組合ヲ結成セシムル等ノ措置ヲ講ズルモノトス

第五章 國家總動員法ノ運用

第十九 重要研究中必要ナルモノニ對シテハ國家總動員法第二十五條ニ依ル總動員試験研究令ニ依リ試験研究ヲ命令スルモノトス  
國家總動員法以外ノ法令ニ依リ研究ヲ命ジ得ルモノ及單ニ補助獎勵金交付ニ依リ研究ヲ助成スルモノニ在リテモ差支ナキ限り統一的ニ總動員試験研究令ヲ適用スルモノトス



第二十 各廳ハ試験研究ノ命令ニ付其ノ實施計畫ヲ企畫院ニ提出スルモノトス

第二十一 命令研究ニ對シテハ研究者及研究用資材ヲ優先的ニ配當スル等之ガ促進ニ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

第二十二 命令研究ノ實施ニ要シタル資本的支出ニシテ研究者ノ事業上ノ利益金ヨリ支辨シタルモノニ對シテハ臨時租稅措置法ノ免稅條項ノ適用ニ當タリ特別ノ考慮ヲ爲スモノトス

第二十三 命令基礎研究ニシテ完了セルモノハ審査ノ上之ガ實用化試験ノ促進ニ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

第二十四 命令實用化試験ニシテ完了セルモノハ審査ノ上之ガ企業化ニ必要ナル助成ノ方法ヲ講ズルモノトス

#### 第六章 研究用資材ノ配當

第二十五 各廳ハ所屬及所管ノ學校、研究機關、事業等ニ於ケル所要ノ研究用資材ニ付其ノ需要額ヲ企畫院ニ提出スルモノトス



但シ命令研究用資材ニ付テハ其ノ主務官廳之ヲ提出スルモノトス

第二十六 企畫院ハ研究用資材ノ需要額ヲ査定シ之ガ配當計畫ヲ設定スルモノトス

第二十七 配當計畫設定ニ當リテハ官廳研究、學術研究、命令研究及之ニ準ズルモノニ重點ヲ置クモノトス

#### 第七章 研究ノ實用化促進

第二十八 發明研究ノ實用化ヲ促進スル爲特許權其ノ他ノ工業所有權ノ實施開拓等ヲ促進スル制度ニ關シ企畫スルモノトス

第二十九 不足資源ノ補填ニ關スル研究ノ實用化試験ヲ促進スル爲之ガ綜合的實用化試験施設ノ設置ニ關シ企畫スルモノトス

第三十 實用化試験ノ成績良好ナルモノニ對シテハ企業化ノ促進ニ關シ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

#### 第八章 産業ノ科學的振興

第三十一 自給原料ノ科學的利用計畫並ニ科學的見地ニ基キ關聯アル



産業ニ關スル綜合計畫ヲ設定スルモノトス

第三十二 技術ノ改善、企業ノ能率化等ヲ圖ル爲必要ニ應ジ技術ニ關

スル組合ヲ結成セシムル等ノ措置ヲ講ズルモノトス

第三十三 生産能率ノ向上、重要資材供給力ノ増強等ヲ圖ル爲戰時規

格制定ノ促進其ノ他適切ナル措置ヲ講ズルモノトス

第三十四 海外ニ於ケル科學研究及技術ノ特別調査ニ必要ナル機關ノ

整備ニ關シ企畫スルモノトス

第九章 中央統轄機關ノ整備

第三十五 科學動員促進ノ爲中央統轄機關ノ整備ニ關シ企畫スルモノ

トス

第三十六 中央統轄機關ハ必要ト認ムル研究機關ヲ其ノ機構内ニ包含

スルコトヲ得ルモノトス





軍事上ノ機密ニ屬スル事項ノ報告等ノ取扱ニ關スル件

(閣議諒解事項)

昭和十五年度科學動員實施計畫綱領ニ依リ各廳ヨリ企畫院ハ提出スル報告等ニシテ軍事上ノ機密ニ屬スルモノハ差支無キ程度ノ概要ニ止ムルコトニ取扱フモノトス





昭和十五年度科學動員實施計畫設定要領 兼

企 畫 院	企 計 G 科 〇 〇 一 號 (甲)
	昭 和 十 四 年 十 月 十 五 日

第一、計畫樹立上ノ條件

戰局ノ狀況及列國ノ我國ニ對スル態度ハ一應現狀ヲ以テ推移スルモノト豫定シテ計畫設定ニ着手シ爾後情勢ノ變化ニ應ジテ必要ノ修正ヲ加フルモノトス

第二、計畫設定ノ方針

計畫設定ニ當リテハ速ニ科學智能ノ總動員ヲ行ヒ以テ國防ノ強化竝ニ重要資材ノ確保ヲ目的トシ科學研究ヲ統制振興スルト共ニ其ノ實用化ヲ促進シ産業ノ科學的振興ヲ圖ルコトニ重點ヲ置クモノトス

第三、計畫ノ設定

(一) 計畫綱領



(イ) 昭和十四年十月一日迄ニ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領要綱ヲ決定スルモノトス

(ロ) 昭和十四年十二月三十一日迄ニ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領ヲ設定スルモノトス

(二) 各應實施計畫

(イ) 各應ハ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領ニ基キ總動員試驗研究令、研究従事者配當、研究用資材配給、補助助成等ニ關シ各應實施計畫ノ原案ヲ設定シ企畫院ニ提出スルモノトス

(ロ) 企畫院ハ各應實施計畫ノ原案ヲ綜合調整シ科學動員委員會ノ議ヲ經テ之ヲ決定ス

(ハ) 各應實施計畫ノ作成要領、提出期日其ノ他設定ニ關スル事項ハ別ニ定ムル實施計畫設定事務要領ニ依ルモノトス





昭和十五年度科學動員實施計畫設定要領 (案)

企 畫 院	企 計 G 科 〇〇一號	昭 和 十 四 年 十 月 二 日
-------------	--------------------------	---

第一、計畫樹立上ノ條件

戰局ノ狀況及列國ノ我國ニ對スル態度ハ一應現狀ヲ以テ推移スルモノト豫定シテ計畫設定ニ着手シ爾後情勢ノ變化ニ應ジテ必要ノ修正ヲ加フルモノトス

第二、計畫設定ノ方針

計畫設定ニ當リテハ速ニ科學智能ノ總動員ヲ行ヒ以テ國防ノ強化竝ニ重要資材ノ確保ヲ目的トシ科學研究ヲ統制振興スルト共ニ其ノ實用化ヲ促進シ産業ノ科學的振興ヲ圖ルコトニ重點ヲ置クモノトス

第三、計畫ノ設定

(一) 計畫綱領



(イ) 昭和十四年十月一日迄ニ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領要綱ヲ決定スルモノトス

(ロ) 昭和十四年十二月三十一日迄ニ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領ヲ設定スルモノトス

(二) 各廳實施計畫

(イ) 各廳ハ昭和十五年度科學動員實施計畫綱領ニ基キ總動員試驗研究令、研究従事者配當、研究用資材配給、補助助成等ニ關シ各廳實施計畫ノ原案ヲ設定シ企畫院ニ提出スルモノトス

(ロ) 企畫院ハ各廳實施計畫ノ原案ヲ綜合調整シ科學動員委員會ノ議ヲ經テ之ヲ決定ス

(ハ) 各廳實施計畫ノ作成要領、提出期日其ノ他設定ニ關スル事項ハ別ニ定ムル實施計畫設定事務要領ニ依ルモノトス



極祕文書送付票

企畫院上申第八四號別紙

昭和十五年四月十一日

企畫院文書課長



內閣官房總務課長殿

左記文書送付候條御查收相成度候

極祕文書	
件名	昭和十五年度科學勸進會設計書頒發及附 兼市制改正案 送付
一連番號	自一號
及部數	至十七號 拾七部

BS タイプライター用紙



新

本件ハ在画院總裁ニ話シタルトコロ、

各大臣カウエトリ矣ス、要テ、且受取

ヲトシ、西女モナシトノコトニテ、ソノ通りニセリ

(5井)



極秘

閣甲第二二號

案起

昭和十五年六月十八日

閣議決定

昭和十五年六月十九日施行

昭和

年

月

日

總理大臣

五

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

遞信大臣

忠

厚生大臣

五

內務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙企畫院總裁上申

昭和十五年度貿易計畫ニ關スル



件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年 六月二十九日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年六月二十八日企畫院上申第一二  
八號ヲ以テ上申ニ係ル昭和十五年度貿易



計畫ニ關スル件上申ノ通閣議決定相  
成候

内閣



企畫院上申第一二八號

昭和十五年六月二十八日

企畫院總裁 竹内 可吉



内閣總理大臣 米 内 光 政 殿

昭和十五年度貿易計畫ニ關スル件

昭和十五年度貿易計畫ニ關シ別紙「昭和十五年度貿易計畫綱領」ノ通閣議決定相成様致度此段及上申候

閣甲二一一

内閣



1  
機密取扱

昭和十五年六月二十六日

昭和十五年度貿易計畫綱領

貿易委員會



第一章 總 則

第一 本綱領ハ「昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針」(昭和十四年六月十六日閣議決定)ニ基キ昭和十五年度輸出貿易、金銀現送、其他貿易外收支ノ計畫ヲ概定シ別途請議ノ「昭和十五年度物資動員計畫綱領」ノ基本タルベキ輸入力ヲ決定スルト共ニ之ガ實施上必要ナル措置ノ大綱ヲ定ムルモノトス

第二 本綱領ノ實施ニ當リテハ輸出貿易、金銀現<sup>送</sup>見込額、貿易外收支ノ狀況等ヲ考慮シ關係各廳ノ協議ニヨリ四半期毎ニ輸入力ヲ概定スルモノトス

第三 現下ノ國際情勢ニ對處シ貿易政策ノ統一及之ガ圓滑ナル實施ヲ圖ル爲官民貿易機構ヲ整備スルモノトス

第四 日滿支ヲ一體トスル見地ニ於ケル對第三國貿易政策ノ統一調整



ヲ圖ル爲必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

第五 歐洲動亂ニ依ル國際情勢ノ推移殊ニ海外市場ノ變動ニ即應シ活潑且臨機ノ對外通商交渉ヲ行フコトトシ差當リ南洋、中南米等ニ主力ヲ集中シ輸入先轉換等ノ方法ニ依リ外交政策ト相俟テ本邦對外經濟力ノ進出ヲ圖リ以テ本計畫額ノ達成ニ努ムルモノトス

第六 計畫年度中適時各計畫額ト実績トヲ比較檢討シ狀況ニ應ジ執ルベキ措置ニ關シ貿易委員會ニ於テ協議スルモノトス

## 第二章 輸入力計畫

第七 昭和十五年年度輸入力計畫額ハ二十七億七千九百萬圓トス

尙輸出代リ金ハ輸出計畫額二十三億七千二百六萬四千圓ニ資金の調整ヲ加ヘタルモノトス（附表一參照）

一 受 入

（單位千圓）



(一)	輸出代り金	二四三〇〇〇
(二)	特別輸出代り金	二一〇〇〇〇
(三)	「クレディット」額（附表二参照）	二〇〇〇〇〇
(四)	金銀現送計畫額（附表三参照）	三八三〇〇〇
(五)	昭和十四年度特別輸入資金返却分ノ充當	二〇〇〇〇〇
(六)	繰延拂等ニ依ル利用額	五〇〇〇〇〇
(七)	輸入貨物運賃圓拂等ニヨル餘裕金額	七九〇〇〇〇
計		一六六〇〇〇〇
二 拂 出		
(一)	貿易外支拂超過額（附表四参照）	二九五〇〇〇〇
(二)	既輸入分所要資金	五三〇〇〇〇〇



昭和十四年度米穀特別輸入所要資金  
 (以上二月二日提出)  
 一年一日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ  
 君 君 小野 謙一君  
 佐藤謙之輔君  
 君 君 牧野 賤男君  
 松山常次郎君  
 松村 光三君  
 宮崎 一君  
 第三 (第一號) 昭和十五年度歳入歳出  
 總算追加案  
 第四 (特第一號) 昭和十五年度特別

三 昭和十四年度米穀特別輸入所要資金

計

三 差引輸入力計畫額

三九、〇〇〇  
 三八、七〇〇  
 二七、七〇〇

備考 海外邦人企業ヨリノ無爲替輸入額一億二千五百萬圓ハ右輸入力計畫額ニ含マザルモノトス

第八 輸入力計畫額二十七億七千九百萬圓中一億五千萬圓ハ滿洲及支那ニ對スル爲替援助額トシ殘額二十六億二千九百萬圓ヲ以テ物資動員計畫ニ充當シ得ル輸入力計畫額トスルモノトス

右滿洲及支那ニ對スル爲替援助額ハ滿洲七千萬圓、支那八千萬圓(小麥輸入資金一千萬圓ヲ含ム)トスルモノトス

尙支那ニ於ケル通貨價值維持ノ爲必要ヲ生ズル場合ハ更ニ別途考慮スルモノトス



（以上二月一日提出）  
 一年一日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

君 君 小野 謙一君  
 佐藤謙之輔君  
 牧野 賤男君  
 松山常次郎君  
 松村 光三君  
 宮崎 一君  
 第三（第一號）昭和十五年度歳入歳出  
 總算追加案  
 第四（特第一號）昭和十五年度特別

（三）昭和十四年度米穀特別輸入所要資金

計

三 差引輸入力計畫額

三九、〇〇〇  
 三八、〇〇〇  
 二七、七〇〇

備考

海外邦人企業ヨリノ無爲替輸入額一億二千五百萬圓ハ右輸入力計畫額ニ含マザルモノトス

第八

輸入力計畫額二十七億七千九百萬圓中一億五千萬圓ハ滿洲及支那ニ對スル爲替援助額トシ殘額二十六億二千九百萬圓ヲ以テ物資動員計畫ニ充當シ得ル輸入力計畫額トスルモノトス

右滿洲及支那ニ對スル爲替援助額ハ滿洲七千萬圓、支那八千萬圓（小麥輸入資金一千萬圓ヲ含ム）トスルモノトス

尙支那ニ於ケル通貨價值維持ノ爲必要ヲ生ズル場合ハ更ニ別途考慮スルモノトス



第二章 輸出計畫額達成ノ爲ノ措置

第九 輸出計畫額達成ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ相當ノ困難ヲ豫想セラルルヲ以テ重要輸出産業ニ付各別ニ産業計畫ヲ樹立シ輸出産業ノ生産ノ維持増進ヲ圖ルモノトス

尙必要ニ應ジ非能率工場ノ整理統合ヲ斷行シ「コスト」ノ低下、品質ノ向上ヲ圖ル等輸出振興上適切ナル措置ヲ講ズルモノトス

第十 輸出産業ノ原材料ニ付左記方策ヲ實施スルモノトス

- (一) リンク制ノ改善ヲ圖ルコト
- (二) 外國爲替基金ノ活用ヲ圖リ必要ニ應ジ之ヲ増額スルコト
- (三) 輸出原材料配給會社等ノ機構ノ整備強化ヲ圖ルコト
- (四) 國內生産狀況及輸出狀況ニ依リ原材料ノ特別輸入ヲ認ムルコト



(五) 物資動員計畫實施上原材料ノ優先的配給ヲ確保スルコト

第十一 貿易關係團體及輸出産業關係團體ノ整理統合ヲ圖リ貿易關係

團體ト輸出産業關係團體トノ縦貫的聯繫ヲ圖ルモノトス

第十二 輸出ノ統制、輸出検査ノ強化等ニ依リ品質ノ低下、濫賣ヲ防止スルモノトス

第十三 物資動員計畫ニ計上セル求償貿易買付物資ニ付テハ確實ニ輸入許可ヲ與ヘ以テ求償貿易交渉上支障ナキヲ期スルト共ニ不要不急品ニシテ専ラ求償貿易ニ基キ輸入セラルル物資ニ關シテハ速ニ輸入及配給統制機構ヲ整備シ再輸出ニ努力スルモノトス

第十四 内外地ヲ通ジ一體トシテ輸出振興ノ實ヲ舉グルタメ輸出ノ助成、輸出ノ統制等ニ關シ内外地間ノ連絡統一ヲ圖ルモノトス



第四章 貿易外收支計登額ノ達成並ニ改善ニ關スル措置

第十五 貿易外受取勘定ノ各項目ニ付計登額ノ實現ニ努ムルト共ニ貿

易外支拂勘定ニ付テハ極力之ガ節減ニ努ムルコトトシ特ニ左記諸方

策ノ實行ニ依リ收支ノ改善ヲ期スルモノトス

(一) 本邦船舶輸送力ノ向上及配船ノ統制ニ關スル徹底的の方策ヲ講ジ

第三國備船料ノ節減ヲ圖ルコト

(二) 再保險收支ノ改善方策ヲ更ニ擴充スルコト

(三) 本邦人ノ海外消費ヲ節約スル爲

(四) 外國旅行ニ付テハ眞ニ緊急已ムヲ得ザル用務ヲ有スル場合ニ

之ヲ局限スルコトトシ之ガ許否ノ決定ニ當リテハ關係官廳ノ連

絡ヲ一層緊密ニシテ實施上遺憾ナキヲ期スルコト



(四) 本邦商社等ノ海外ニ於ケル企業ノ經營ヲ合理化シ經費ノ節減ヲ圖ルコト

(四) 在外邦人ノ本邦内國公債ニ對スル投資、本邦銀行ニ對スル外貨預金ノ増加ヲ圖ルコト

(五) 在在外貨資産ノ動員ニ付テハ收支ノ改善ヲ目途トシ之ヲ實行スルコト

### 第五章

「クレデット」獲得額及金銀現送計畫額達成ノ爲ノ措置

第十六 「クレデット」ニ付テハ物資動員計畫物資ノ獲得ニ資スルモノハ勿論、更ニ輸出増進ニ寄與シ得ルモノハ通商交渉並ニ當業者ノ指導等ニ依リ之ガ獲得ニ付萬般ノ努力ヲ傾クルモノトス

第十七 金ノ増産ニ付キ所要資材、勞力等ノ配給ヲ適確ナラシムル爲



輸入資材等ノ配給機構ノ整備其ノ他必要ナル措置ヲ講ズルト共ニ金  
銀貨、金銀地金及金銀製品ノ回收ニ付要スレバ強權的措置ヲ講ズル  
等更ニ之ガ徹底ヲ圖ルモノトス



極秘

昭和十五年六月

附表一ノイ  
昭和十五年度輸出訂登額

貿易委員會



昭和十五年年度輸出計整額

品名	單位	數量	金額 (單位千圓)	單價 (單位圓)	備考
一米及	百斤	三六〇〇〇	八〇五	二二・三五	
二豆類	百斤	五二〇〇〇〇	一〇、四〇〇	二〇・〇〇	
三澱粉	百斤	六〇〇〇〇	一、〇八〇	一八・〇〇	
四農作物			九一一〇		
(1) 蜜柑			一、六一〇		
(2) 百合根			二、〇二五		
(3) 馬鈴薯			一、二〇〇		
(4) 蔥頭			八〇〇		
(5) 其他			三、四七五		
五茶	百斤	三六五〇〇	二九、二〇〇	八〇・〇〇	
六精糖			〇	〇	



七水	產物	百斤		一三、五〇〇	
八寒	天	百斤	一八、〇〇〇	九〇〇〇	五〇〇・〇〇
九煉	乳	百斤	一二八、〇〇〇	四、四八〇	三五・〇〇
一〇バ	夕	百斤	七、五六〇	七一八	九五・〇〇
一一	罐詰食料品			一二五、四九七	
一二麥	酒	石	四五、〇〇〇	二、五六五	五七・〇〇
一三葉	煙草	百斤	三一、九〇三	一、五三一	四八・六一
一四植	物油	百斤	三五〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	三〇・〇〇
一五薄	荷油	百斤	三、七〇〇	二、二二〇	六〇〇・〇〇
一六魚油及鯨油		百斤	二〇一、六六七	九〇七五	四三・〇〇
一七木	蠟	百斤	五〇、〇〇〇	三、五〇〇	七〇・〇〇
一八硬化油及脂肪酸		百斤	三六〇、〇〇〇	一〇、八〇〇	三〇・〇〇
一九石	鹼			一〇、〇〇〇	
二〇グリセリン		百斤	〇	〇	〇



二一	樟腦	百斤	二七八三三	八三五〇	三〇〇・〇〇
二二	薄荷腦	百斤	四七八三	七一七五	一五〇〇・一〇
二三	除蟲菊 及除蟲菊製品	百斤	八一、〇〇〇	九三一五	一一五・〇〇
二四	燐寸	百斤	七〇、〇〇〇	一、九八六	二八・百七
二五	綿織絲	百斤	六二五〇〇〇	八七三〇〇	一四〇・〇〇
二六	毛絲	百斤	五二、五〇〇	二三、六二五	四五〇・〇〇
二七	屑絲真綿及玉絲	百斤	一、〇〇〇	八〇〇	八〇〇・〇〇
二八	生絲	百斤	三三〇、〇〇〇	五一、五〇〇	一、五五〇・〇〇
二九	絹擦絲	百斤	一、七二四	三、〇一七	一、七五〇・〇〇
三〇	人造絹絲	百斤	三六六、〇〇〇	四三、九二〇	一二〇・〇〇
三一	ステープルファイバー	百斤	一八〇、〇〇〇	一六、三八〇	九一・〇〇
三二	ス・フ絲	百斤	一三五〇〇〇	一八、〇九〇	一三四・〇〇
三三	綿織物(生地)	千方碼	七二六三一〇	一二二、〇二〇	一六八・〇〇



三四	(晒)	千方碼	六三三〇九〇	一三一〇四九	二〇七・〇〇
三五	(其他)	"	一、一七八〇〇〇	三一八〇六〇	二七〇・〇〇
三六	毛織物	"	一六〇〇〇	三二、〇〇〇	二、〇〇〇・〇〇
三七	絹織物	"	四三、六二二	三六、二〇六	八三〇・〇〇
三八	人造絹織物	"	二九五、二〇〇	一一八、〇八〇	四〇〇・〇〇
三九	ス・フ織物	"	七〇〇〇	三、〇一〇	四三〇・〇〇
四〇	綿ブランケット	百斤	四五六〇〇	五九二八	一三〇・〇〇
四一	綿タテ	千打	四〇七五	九三七二	二、三〇〇・〇〇
四二	絹製手巾	千打	一、七六一	三、三二二	二、〇〇〇・〇〇
四三	メリヤス製品	千打	一五、一一五	五一、〇八八	三、三八〇・〇〇
四四	帽子及帽體	千打	一、七五〇	九五〇〇	五、四二八・五〇
四五	鈕釦	千哥	二二、〇〇〇	一一、〇〇〇	五〇〇・〇〇
四六	身邊粧飾用品			一三、〇〇〇	







五九竹	材			八五六		
六〇竹	製品			一、五〇〇		
六一木	材			二〇、〇〇〇		
六二製帽用眞	田	千束	一四、〇〇〇	六三〇〇	四五〇・〇〇	
六三花	蔭			一、七〇〇		
六四洋	傘	千打	九八四	一、七四八	九五〇・〇〇	
六五ブラツシユ				四〇〇〇		
六六ランブ	品			一、九八〇		
六七玩	具			二〇、三〇九		
六八魚	粉	百斤	六六六六六七	六六〇〇	九・九〇	
六九其	他			二六〇、〇〇〇		
總計				二、三七〇、二六四		



極秘

附表一(口)

昭和十五年六月二十六日

企計 貿〇〇四號

昭和十五年度輸出品用原材料計畫(原材料別)

貿易委員會



凡 例

本表ハ昭和十五年度第三國向帝國輸出計畫總額二十三億七千萬圓ヲ  
達成スルニ要スル輸出品用原材料ニシテ主トシテ輸入ヲ要スト認メ  
ラルルモノナリ

本表中ニハ昭和十五年度露領漁業、南氷洋捕鯨事業及北鐵賠償ニ對  
應スル所要原材料ヲ包含シアリ

所要原材料ニシテ數額ノ比較的僅少ナルモノハ之ヲ省略シアリ  
輸出産業ニ要スル燃料（石炭等）ハ別途計畫スルモノトシ本表中ニ  
ハ之ヲ計上セス



分科	第一分科	原材料名	數量	金額	備考
	鐵	普通鋼材	九二四	二七五・〇	六〇〇圓
		△(ワイヤード)	九七三三・三	二五二五八・六	二八〇圓
		普通鋼材	四〇七・〇	八五・四	二一〇圓
		△(シートパイ)	三〇九三〇・〇	六四九五・三	二一〇圓
		全(シートパイ)	九九三三四・〇	二〇八五八・〇	二一〇圓
		全(チンパイ)	二五五三〇・〇	五七八五・五	二一〇圓
	普通	銑	一七六一八・〇	一九三三・〇	二一〇圓
	屑	鐵	一七五七・〇	三一六・九	一四八圓
	特殊鋼材		四〇二・四	四三四七・〇	二一〇圓
	マンガ	ン	二〇〇・〇	一七・〇	六〇圓
	クロム	鑛	一八二・一	二一〇・九	七五圓
	タンクステン	鑛	一・〇	四・六	四五〇圓
	ニッケ	ル	一〇〇・三	三二一・一	六〇〇圓
	モリブ	デン	〇・五	一七・〇	六〇〇圓

(金額單位 千圓)

單價適當



シテ政府ハ、會社經理統制令ハ忽然下御定  
 セラレタモノデハナク、從來ノ法令ヲ統合  
 直米ニ在キオ價シテノシ、  
 寧ロ之ヲ云々スルコトニ依リ米穀ノ供出方  
 阻マレルコトヲ恐レル、將來ノ問題ニ關シ  
 其ノ點ニ關スル政府ノ所見如何、小作地ノ  
 國有ヲ斷行スルノ意思ナキヤ、此ノ質疑方  
 ルニトニ至シ、  
 テ居ルガ、綿ノ纖維ト羊毛トノ混紡方最モ  
 シイコト方分リマシタ、將來此ノ方面ニ

二 分 科	計	111051.3	單價適當
電 氣 銅	電 銅	4031.2	1150圓
層 銅	層 銅	1843.3	1050圓
眞 鍍	眞 鍍	439.0	658圓
鉛 層	鉛 層	10211.31	360圓
亞 鉛	亞 鉛	12171.1	550圓
亞 鉛	亞 鉛	100.0	340圓
亞 鉛	亞 鉛	150.0	110圓
錫 鉛	錫 鉛	1133.9	500圓
ブ リ キ 層	ブ リ キ 層	1500.0	130圓
ア ン チ モ ン	ア ン チ モ ン	480.8	1450圓
水 銀	水 銀	10.0	2700圓
ジ ン ク コ ン	ジ ン ク コ ン	1368.0	1130圓
封 度	封 度	27.7	2850圓
ア ル ミ ニ ウ ム	ア ル ミ ニ ウ ム	1519.1	1600圓
ア ル ミ ニ ウ ム 層	ア ル ミ ニ ウ ム 層	500.0	1600圓



計	鑛砂及其他金屬、 鑛物及鑛製品	石膏	貴石半貴石	水晶	研磨材料	雲母	石棉	鱗狀黑鉛	水晶	螢石		
	千圓	應	"	"	千圓	"	"	"	"	應		
		五〇七二・〇				五・〇	三一九・八	五〇・〇	一・〇	五八二・五		
	三〇〇〇〇・七	一五五・八	一二六・八	五〇・〇	一〇・〇	一八四・〇	九〇・〇	一五七・九	二五・〇	〇・九	五八・二	
			單價應當				高普			單價應當		
		一三圓	二五圓				一八〇〇〇圓	一〇〇〇圓	四〇〇圓	五〇〇圓	八五〇圓	一〇〇圓



第三分科ノ一

特殊用紙	コツリンター	マニラ麻	亞麻	苧麻	マゲ	ノイ	テグ	黄麻	羊毛	製紙用パルプ	人絹用パルプ	製綿用棉花	紡績用棉花
千圓	英噸	"	"	"	"	"	"	噸	俵	"	英噸	"	擔
	4048.0	9255.0	37.0	97.0	380.0	132.0	0.6	8720.0	136137.5	32534.0	11480.0	1500.0	4648188.8
	136.7	2024.0	3887.1	65.0	114.0	336.0	15.0	5406.4	49548.0	12460.5	47869.5	52.5	497132.0
	"	"	"	"	"	"	"	單價適當	但敷物用製 織用除少	"	"	"	單價適當
	500圓	420圓	375圓	69圓	300圓	300圓	1500圓	620圓	367.65	383圓	429.4	35圓	65圓

5



第三分科ノ二		計	計	計	計
生	ゴム	八三三九・六	一三七六〇・三	單價應當	一三三〇圓
厩	ゴム	二八六五・〇	六八七・六	"	二四〇圓
タンニン材料	"	七〇七・五	二六三・三	"	三七五圓
牛	皮	一七〇七・五	一五五〇・五	"	一四〇〇圓
其ノ他ノ皮革類	千圓	四〇四・〇	四〇四・〇	"	七〇圓
米	立方	二二二二・二	一八九八・六	"	七〇圓
鉛筆用材	"	一〇〇〇・〇	二四五・〇	"	二四五圓
南洋材	"	五三三三・〇	一三九二・二	"	四六圓
縞黒檀	"	一三一一・〇	一五六・九	"	一四〇圓
燐寸用材	擔	三三五四・〇	一八四・三	"	五・五〇
計		二一七四四・七	二一七四四・七		
計		一六九〇・〇	八四一・〇		四九七圓
計		六三〇〇〇・七			

8







アラビヤゴム	三七八・三	三七八・三	單價	1000圓
トラガントゴム	一三三・八	四二五・二	"	1180圓
セラツク	一七七・四	二二二・九	"	1200圓
松脂	1509・六	五四七・〇	"	310圓
其ノ他ノゴム及樹脂	1080・八	702・五	"	650圓
カゼイン	1765・〇	1359・〇	"	770圓
寫眞用ゼラチン	三・一	二四・四	"	490圓
獸筋	二六七八・八	七九四・七	"	150圓
コイルタル分溜分及生成品	六五・五	111・五	"	330圓
硫酸ニツケル	四15・七	四15・七	"	1000圓
鑛物性ターペン	1504・〇	150・六	噴	1・2
噴			噴	



第五分科ノ一

テレメン油	17440.0	10.1	單價	3.5
生酒石	11500.0	1321.5	應當	11500圓
其ノ他ノ藥品	48340.0	48340.0	應當	15000圓
ヒグウッド及全 エキス	1650.0	227.3	應當	15000圓
合成染料	40100.0	40100.0	應當	9000圓
カーボンブラツク	4060.0	363.4	應當	9000圓
酸化コバルト	850.0	192.6	應當	1400圓
鹽化コバルト	3840.0	60.0	應當	156圓
イソメナイト	18000.0	1450.0	應當	80圓
其ノ他ノ顔料及 藥料	3070.0	3070.0	應當	80圓

9



ネバナラス、政府ト統帥部トガ一體トナツ  
 ニ對シテハ一面膺懲、一面提携ノ方針ヲ  
 維持スルノカ、又ハ徹底的ニ之ヲ膺懲スル  
 神ニ出ヅルモノデ、何等疾シイ點ハナイ、  
 「アメリカ」ノ親日政策ハ支那事變ノ即時中  
 止ト、大陸政策ノ半後退トヲ條件トスル  
 ノ進捗狀況ノ説明ヲ求メラレタノニ對  
 外務大臣ヨリ日「ソ」國交善惡化シテカ  
 二十年以上ニナルノデ、之ヲ一朝一夕

第五分科ノ二							
全部鹽化カリ	硫酸ソーダ	計	コブラ	採油用種子	其ノ他ノ油脂蠟	カルナウバ蠟	牛脂
千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
118,900	31,400	50,000	2,000	2,000	2,000	3,800	3,800
2,110	4,713	6,395.5	2,400	2,200	2,100	1,170	1,170
單價應當	單價應當	單價應當	單價應當	單價應當	單價應當	單價應當	單價應當
1150圓	150圓	188圓	188圓	1002.2圓	300圓	300圓	300圓

10







屋カ買ニラレタノコトハ事實デゴザイマ  
 ス、隨テ政府ノ財政經濟ニ關シマスル態度  
 般ノ施策方國民心理ノ作用ニ及ボス影響ニ  
 付テハ、篤ト留意ヲ必要トスルカト存ズル  
 ノデアリマシキ(拍手) 即チ綜合的或ハ計畫  
 一般行政ハ、何分ニモ法規ノ行政デアリ、  
 通達ノ行政デアリ、先例ノ行政デアリ、  
 魚行政運用ノ特殊ニ乏シイト云フコトハ、  
 產業開發ハ相當ノ成果ヲ收メテ  
 子アリマシキ、是ハ洵ニ喜ブベキコ  
 イマス、併シナガラ尙ホ其ノ上ニ  
 綜合ニ檢トシタル具體的計畫ノ

第七分科		砂	糖	應	一六八二五〇	四三三九〇	單價應當	二二八圓
玉		蜀	黍	"	一七九六〇	二〇三三〇	"	一〇八圓
第七分科計		計				四四二二〇		
第八分科ノ二		アイボリーナツ ト等ノ鈕釦製造 用核子			一	一八八二〇		
第八分科ノ三		珈	琲	千圓	一	四〇		
	コ	コ	ア	"		一〇〇		
	其ノ他			"		一三三九〇		



出) 第一讀會

コトニ關スル件(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

ハ注行多 一昨三日政府ヨリ昭和十四年度國有財産増成總計書及之ニ添付スベキ各省ノ同増

理事 伊藤 五郎君 小山倉之助君

第八分科ノ四		第八分科ノ六						
豚	其ノ他ノ獸毛	獸骨	獸牙	獸角	獸蹄	貝殼	其ノ他	
千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	
1	1	1	1	1	1	1	1	
1,581.00	2,200.00	1,200.00	1,000.00	700.00	1,000.00	1,200.00	1,200.00	







各分科 總計	第八分科 計	フィルムベース	
		其 ノ 他	千圓
八八四三五三六	一七〇三六六	一四四・〇	一一・〇

15

15





附表二

昭和十五年度クレジット計畫

(單位 千圓)

國別	輸入商社名	商品名	クレジット總額	昭和十四年度末迄輸入額	昭和十五年度中輸入額	昭和十四年度末迄決済額	昭和十五年度中決済額	差引外貨資金節約可能額
獨逸	ボーレル	特殊鋼及完成マグネツト	〇〇〇〇	八六二八	一	五九八九	二六三九	(-) 二六三九
獨逸	不二越	特殊鋼	五〇一一	四四八〇	一	三二三一	一、二四九	(-) 一、二四九
獨逸	獨逸製鋼	"	五〇九七	四九二一	一	四九二一	一	一
瑞典	ガデリウス	パルプ機械	四九七二	四九七二	一	三四八〇	一、四九二	(-) 一、四九二
瑞典	日本エス、ケイ、エフ	軸、受	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	五一五五	四八四五	(-) 四八四五
"	"	"	八、〇〇〇	一	一	一	三、六〇〇	二、四〇〇



合 計	澳洲三井物產大	印度日 鐵銑	米國日 鐵鋼材等	米國不 二越特 殊鋼	瑞西 其 他 機 械 類
八五〇四二	麥 二、六六五	鐵 二、四八〇	四、二五〇	二、五六七	二、〇〇〇
三七四八〇		三、四〇四		一、〇七五	
二一、四〇七	二、六六五		四、二五〇	一、四九二	七、〇〇〇
二五三一四		二、一八〇		三、五八	
一九三五八		一、二二四		二、二〇九	二、一〇〇
		(-)		(-)	
二、〇四九	二、六六五	一、二二四	四、二五〇	七、一七	四、九〇〇



極秘

附表三

昭和十五年度金銀現送計畫

三、銀				一、金			
(三)	(二)	(一)	(四)	(三)	(二)	(一)	
計	其	新	特別措置ニヨル現送	計	其	新	
	ノ	産			ノ	産	
	他	銀			他	金	
							買入豫定高
二	一	一	三	二	七	七	
六	六	〇	四	七	一	一	
			二				現送豫定高
二	一	一	二	一	四	二	
六	六	〇	一	五	二		

單位 百萬圓



三  
合  
計

三  
六  
八

三  
八  
三

三  
合  
計



極秘

昭和十五年六月

附表 四

昭和十五年度貿易外收支計畫

貿易委員會



昭和十五年度貿易外收支計畫總括表

支拂勘定	内地		臨時部		受取勘定	内地		臨時部		合計	外地		合計	差引支拂百通
	經常部	臨時部	經常部	臨時部		經常部	臨時部	經常部	臨時部					
	四	四	一	〇	二	七	〇	〇	〇	六	〇	七	三	二
	六	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六	〇	五	三	九
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇



昭和十五年貿易收支計畫內譯

支拂勘定	金額
内地	
經常部	
一 外國間貿易	1,000,000
二 貿易附帶費用	200,000
三 證券利子	157,000
(一) 國債	113,000
(二) 地方債社債	44,000
四 配當金其ノ他ノ資本收益	200,000

千圓



(一) 株式配當金	一九〇〇
(二) 預り金借入金利子等	一〇〇〇
五 外國商社事業關係	三〇〇〇
六 本邦商社事業關係	三一〇〇〇
(一) 海外店舖經費	一九〇〇〇
(二) 無體財產權ノ取得及使用對價	一二〇〇〇
七 勞務利益	一七〇〇〇
八 海運關係	一一七〇〇〇
(一) 備船料	八六〇〇〇
(二) 外國船舶會社ノ在外店舖へノ送金	一三〇〇〇〇
(三) 本邦船舶會社ノ在外店舖へノ送金	一八〇〇〇〇



九 保險關係

(一) 保險料

(二) 保險金

(三) 再保險勘定戻送金

(四) 其ノ他保險關係支拂

一〇 本邦人海外消費

(一) 旅費滞在費

(二) 其ノ他

一一 政府海外拂

經常部計

臨時部

一六〇〇〇

二五〇〇

五〇〇〇

八二五〇

二五〇

一四〇〇〇

一三〇〇〇

二〇〇〇

五〇〇〇

四四六〇〇



一 海外投資  
 二 本邦證券元本償還  
 (一) 國債  
 (二) 地方債 社債  
 三 其ノ他外資返還  
 臨時部計  
 内地支拂勘定計  
 外地  
 内外地支拂勘定合計

六〇六〇〇〇	五〇〇〇〇	六〇二〇〇〇	一五六〇〇〇	二三〇〇〇	四三〇〇〇	三三〇〇〇	七五〇〇〇	五八〇〇〇
--------	-------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------



項	目	金	額
受取勘定			
西地			
經常部			
一、外國間貿易		一、〇〇〇	千圓
二、貿易附帶費用		七、九〇〇	
三、證券利子		一、〇〇〇	
四、配當金其他資本收益		二、〇〇〇	
五、外國商社事業關係		六、六〇〇	
六、本邦商社事業關係		四、七〇〇	
七、勞務利益			



八海運關係

(一) 外國船舶會社ノ本邦店舗ヘノ送金

(二) 本邦船舶會社ノ在外店舗ヨリノ送金

九保險關係

(一) 保險料

(二) 保險金

(三) 再保險勘定戻送金

(四) 其ノ他保險關係受取

一〇外國人本邦内消費

(一) 旅費滞在費

(二) 其ノ他

八五〇〇	一四五〇〇	二三〇〇〇	五〇〇〇	四五〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	二二〇〇〇
------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------



一一、政府海外收入	八〇〇〇
經常部計	二七〇〇〇〇
臨時部	
一、外資受入	三〇〇〇〇
二、海外投資回收	一〇〇〇〇
臨時部計	四〇〇〇〇
內地受取勘定合計	三一〇〇〇〇
外地	二〇〇〇〇
內外地受取勘定合計	三一〇〇〇〇
差引支拂超過	二九五〇〇〇



閣甲第二一六號

案起 昭和十五年七月五日

閣議決定 昭和十五年七月五日 施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

*近衛*

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

*廣田*

陸軍大臣

*西園寺*

文部大臣

*三木*

遞信大臣

*齋藤*

厚生大臣

*廣田*

內務大臣

*若原*

海軍大臣

*通水*

農林大臣

*磯谷*

鐵道大臣

*回野*

大藏大臣

*松本*

司法大臣

*廣田*

商工大臣

*廣田*

拓務大臣

*海野*

別紙

昭和十五年年度貿易計畫綱領ニ関スル







old Toke note about ~~200 million~~  
about conversion of 200 million yen  
and Bank of Japan

(w)



通牒案

昭和十五年七月五日

內閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年度貿易計畫細領ニ關スル諒解  
事項別紙、通閣議決定相成候





昭和十五年度貿易計畫綱領ニ關スル諒解事項

昭和十五年度貿易計畫綱領第二章輸入力計畫第七中受入ノ(四)及(五)ニ付テハ左記ノ如ク諒解ス

一、金銀勘定ニ於テ本年度ニ使用スベキ總額ハ合計五億八千三百萬圓タルコト

二、本年度ノ新産金及回收金中ヨリ日本銀行ニ返却スヘキ昭和十四年度特別輸入資金二億圓ハ之ヲ返却セズ本年度ニ於テ使用スルコトトシ其ノ殘額三億八千三百萬圓ハ極力新産金及回收金ヲ以テ充當スル様努ムルコトトスルモ其ノ成績如何ニ依リテハ新産金及回收金ノ外日本銀行保有金ヲ最大限二億一千五百萬圓迄現送スルコト

三、昭和十四年度特別輸入資金トシテ使用スベキ計畫ヲ樹テタル日本銀行保有金二億圓ハ昭和十六年度ニ於テ之ヲ返却スベキ計畫ヲ樹ツルコト

四、昭和十五年<sup>度</sup>ニ於テ使用スヘキ計畫ヲ樹テタル日本銀行保有金二億一千五百萬圓ハ昭和十七年度ニ於テ之ヲ返却スヘキ計畫ヲ樹ツルコト



閣甲第二三四號

案起

昭和十五年七月十日

閣議決定

昭和十五年七月十六日施行

昭和十五年七月二十一日

# 極秘

理大臣

*(Signature)*

内閣書記官長



内閣書記官



*(Signature)*

陸軍大臣

*(Signature)*

文部大臣

*(Signature)*

遞信大臣

*(Signature)*

厚生大臣

*(Signature)*

内務大臣

*(Signature)*

海軍大臣

*(Signature)*

農林大臣

*(Signature)*

鐵道大臣

*(Signature)*

大藏大臣

*(Signature)*

司法大臣

*(Signature)*

商工大臣



拓務大臣

*(Signature)*

四

別紙企畫院總裁上申

昭和十五年度勞務動員實施計畫



紙類

四

閣甲第二三四號

起案 昭和十五年七月十九日

閣議決定 昭和十五年七月十六日施行

昭和十五年七月十五日 通牒

內閣總理大臣

山

內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣

山

陸軍大臣

馬

文部大臣

山

遞信大臣

山

厚生大臣

山

內務大臣

山

海軍大臣

山

農林大臣

山

鐵道大臣

山

大藏大臣

山

司法大臣

山

商工大臣



拓務大臣

山

別紙企畫院總裁上申

昭和十五年度勞務動員實施計畫



右閣議ニ関スル件  
細領ニ関スル件  
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十五年七月十六日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十五年七月十五日企畫院上申第一四三號  
ヲ以テ上申ニ係ル昭和十五年度勞務動員



實施計畫綱領ニ関スル件上申ノ通閣議  
決定相成候

内

閣



主任 第三部 石井書記官

企畫院上申第一四三號

昭和十五年七月十五日

企畫院總裁 竹 内 可 吉



内閣總理大臣 米 内 光 政 殿

昭和十五年度勞務動員實施計畫綱領ニ關スル件

昭和十五年度勞務動員實施計畫綱領ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成  
様致度本院官制第一條第一項第一號ニ依リ此段及上申候

閣甲二二四

内閣

15.7.15  
15.7.15  
15.7.15



機密取扱

昭和十五年度勞務動員實施計畫綱領（案）

企計 4 人後第一號 (六)

昭和十五年七月十三日

企畫院 第三部

第一章 總則

第一 本綱領ハ昭和十四年六月十六日閣議決定「昭和十五年度以降國家總動員計畫設定方針」ニ基キ昭和十五年度勞務動員實施ノ基準トナルベキ事項ヲ定ムルモノトス

第二 本綱領ハ國家生産總力發揮ニ遺憾ナカラシムル爲特ニ左ニ掲グル事項ノ達成ニ要スル勞務ノ需給調整ヲ適確ナラシメ且勞務ノ質的增強ヲ圖リ併セテ日滿支間ノ勞務ヲ調整シ以テ勞務ノ統制運用ヲ刷新整備スルヲ以テ目的トス

- 一 軍需ヲ充足スルコト
- 二 生産力擴充計畫ヲ遂行スルコト



三 輸出ヲ振興スルコト

四 國民生活ノ必需ヲ確保スルコト

第三 各廳ハ本綱領ニ基キ速ニ各廳實施計畫ヲ設定シ之ヲ實施スルモノトス

滿支關係廳ニ於テハ本綱領ノ趣旨ニ準ジ勞務動員實施計畫ヲ設定シ夫々適切ナル對策ヲ講ゼシムル豫措置スルモノトス

第一項ノ各廳實施計畫及前項ノ勞務動員實施計畫ノ要項ハ速ニ之ヲ企畫院ニ提出スルモノトス

各廳ハ前項實施計畫ノ實績ヲ適宜企畫院ニ報告スルモノトス

第四 勞務動員實施ニ當リ特ニ重要案件ヲ生ジタルトキハ其ノ處理ハ人員動員委員會ニ依リ之ヲ調整スルモノトス

第二章 一般勞務者需給調整方策

第五 昭和十五年度一般勞務者ノ需給計畫ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島別ニ工業、鑛業、運輸通信業、土木建築業勞務者ノ新規



需要數並ニ之ニ對スル供給數及農業（林業及水産業ヲ含ム以下同ジ）ノ勞務ノ需給關係ヲ推測シテ設定スルモノトス

前項ノ計畫ニ付テハ滿洲開拓民其ノ他移民竝ニ各地域間移住勞務者

ニ關スル需給ヲ同時ニ豫定スルモノトス

第六 前記ノ需要數ハ概ネ左記各號ノ員數トス

一 軍需産業、生産力擴充計畫産業並ニ其ノ附帶産業、輸出及生活必需品産業、運輸通信業及土木建築業ニ於ケル需要增加數及減耗ノ補充ニ要スル數

二 主要農業ニ於ケル減少ノ補充ニ要スル數

三 滿洲開拓民其ノ他移民竝ニ各地域間移住勞務者數

前記ノ需要數ハ附表第一乃至第五ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス

第七 前記ノ需要ハ概ネ左記各號ノ給源ヨリ之ヲ充足スルモノトス

一 昭和十五年新規小學校卒業者

二 昭和十五年新規中等學校卒業者

三



- 三 物資動員其ノ他事變關係離職者
  - 四 未就業者（手助ヲ含ム）
  - 五 商業其ノ他ニ於ケル勞務節減可能ナル業務ノ従事者
  - 六 農業ヨリ供出可能ナル勞務者
  - 七 女子無業者
  - 八 地域外ヨリノ新規移住勞務者
- 前記各號ノ給源ヨリ供出スベキ目標數ハ附表第六乃至第十ノ如ク之ヲ豫定スルモノトス
- 第八 需給ノ適合ヲ圖リ必要勞務ノ圓滑ナル充足ヲ期スル爲概ネ左ノ措置ヲ講ズルモノトス
- 一 就職ノ指導斡旋、募集ノ統制ニ當リテハ産業別工場事業場等ノ重要度ヲ定メ一層重點主義ヲ強化スルコト
  - 二 地方プロツク及道府縣等ニ於ケル勞務ノ需給調整ヲ計畫化シ其ノ募集及供出ヲ組織化スルコト



三 未就業者、無業者、勞務節減可能ナル業務ノ從事者、季節的出稼者等ニ付簡易登録制度ヲ創設シ勞務者ノ募集ヲ容易ナラシメ併セテ徵用ノ準備ニ資スルコト

四 青少年雇入制限令ヲ強化シ之ガ勵行ヲ徹底セシムルコト

五 募集及紹介ニ付事務ノ簡易化、補助的機構ノ活用ヲ圖ルコト

第九 從業者ノ移動増加ニ依ル勞務需給調整ノ支障大ナル實情ニ鑑ミ重要産業ニ於ケル從業者ノ移動防止ノ徹底ヲ圖ル爲從業者雇入制限令ヲ改正強化スルト共ニ之ガ違反ニ對スル制裁處罰ヲ嚴ニシ其ノ勵行ヲ徹底セシムル方途ヲ講ズルモノトス

第十 新規小學校、中等學校卒業者其ノ他年少者ノ就職ニ付テハ必要勞務ノ充足ヲ適確ナラシムルト共ニ之ガ適性ニ依ル配置ヲ圖ル様指導統制ヲ強化スルモノトス

第十一 物資統制ノ強化ニ伴フ離職者其ノ他青壯年者ノ轉職ニ付テハ必要勞務ノ充足ニ資スル爲職業輔導、轉就職ノ指導斡旋ヲ一層徹底

五



スルモノトス

六

第十二 農村ヨリ勞務ヲ供出スルニ當リテハ主要農產物ノ生産ニ支障ナカラシムル爲農業勞務ノ地方的偏倚ヲ避クルト共ニ作業ノ合理化ニ依リ轉出セシメ得ル者ヲ供出スル様其ノ計畫的調整ヲ行フモノトス

主要農產物ノ生産ニ必要ナル勞務需給ノ調整ニ付テハ道府縣並ニ市町村等ノ區域ニ勞力調整計畫ヲ設定シ當該地域内ニ於ケル勞力ノ合理的利用ヲ促進シ時ニ其ノ繁忙期ノ勞務需要ニ付當該地域外ヨリノ勞力補給ヲ圖ル爲集團的移動勞働班ノ組織、學生生徒ノ勤勞奉公隊ノ供出、商工業従事者ノ一時歸農等ノ方策ヲ組織的ニ實施スルモノトス

第十三 農村其ノ他ニ於ケル季節的勞務給源ニ付組織的調査ヲ爲シ簡易登録制度ノ實施、勤勞奉公隊ノ組織等ノ方法ニ依リ特ニ勞務逼迫セル工鑛業、運輸業、土木建築業ニ於ケル季節的勞務ノ積極的利用



ヲ促進スルモノトス

第十四 女子ノ勞務ニ關シテハ職場ノ選擇ニ付積極的指導ヲ行ヒ特ニ女子ノ勞務ヲ必要トスル産業ノ需要ヲ充足スルコトニ重點ヲ置キ未婚ノ不就職女子ノ就職勸奨及勤勞奉仕ヲ強化スルモノトス

第十五 朝鮮勞務者ノ移住ニ關シテハ概ネ附表第十一ニ掲グル目標ノ下ニ之ヲ促進スルト共ニ之ガ指導訓練ノ徹底及協和事業並ニ内鮮警察機構ノ擴充ヲ圖ルモノトス

第十六 一般勞務者ノ不足ニ因リ勞務動員實施計畫遂行上重大ナル支障ヲ生ズル虞アル場合ニ於テ之ガ充足ニ付他ニ適切ナル方策ヲキキトキハ徵用ノ手段ニ依ルモノトス

第十七 内外地滿支間ノ勞務移動供出ニ關シテハ各地域間ノ連繫ヲ一層緊密ニシ之ガ組織的需給調整ノ方途ヲ講ズルモノトス

第三章 技術者、熟練勞務者等需給調整並ニ技術振興方策

第十八 昭和十五年機械、電氣、應用化學、採鑛冶金等ノ工鑛關係學

七



校卒業者ニ對スル内外地滿支各地域別需要數及之ニ對スル新規學校卒業者ノ配當數ハ附表第十二ノ如シ

昭和十五年度ニ於テ行フ昭和十六年新規學校卒業者ノ配當ハ内外地滿支各地域別新規需要數ヲ推算シ技術者配置ノ實情ヲ檢討シテ決定スルモノトス

第十九 技術者ノ不足ニ因ル支障ヲ補フ爲概ネ左ノ措置ヲ講ズルモノトス

- 一 不就業技術者ノ就業及使用ヲ一層勸奨斡旋スルコト
- 二 技術檢定制度ヲ一層擴張活用シ技術者補給ノ途ヲ拓クコト
- 三 熟練勞務者中技術檢定合格者其ノ他優秀ナル者ヲ格上ゲ利用スルコト

- 四 同一系統企業間、親工場下請工場間、中小工場間等ニ於テ技術者ノ融通、共同利用其ノ他技術者ノ合理的使用ノ方途ヲ講ズルコト



第二十 學校卒業者使用制限令ニ適當ナル改正ヲ加ヘ技術者ノ配置規

正ヲ一層適正圓滑ナラシムルモノトス

第二十一 技術者及熟練勞務者ノ不足ニ因リ勞務動員實施計畫ノ遂行  
上重大ナル支障ヲ生ズル虞アル場合ニ於テ之ガ充足ニ付他ニ適當ナ  
ル方策ヲキトキハ徵用ノ手段ニ依ルモノトス

第二十二 重要産業ニ於ケル技術水準ノ向上ノ緊要ナルニ鑑ミ新入及  
經驗勞務者ノ短期教育及熟練勞務者並ニ下級技術者ノ養成等從業者  
各層ニ對スル綜合的的技能教育ノ振作徹底ノ措置ヲ講ズルモノトス  
前項ノ外技能ノ公同、競技、表彰等ノ諸方策ニ依ル技能向上ノ方途  
ヲモ講ズルモノトス

第二十三 土木建築技術者、船員、農業技術者等ニ付テハ概ネ前各號  
ニ準ジ需給ノ調整及計畫的養成ヲ行フモノトス

第四章 勞働力ノ保全增強及能率增進方策

第二十四 勞働ノ生産性ノ低下特ニ勞務者體資ノ衰退ノ傾向ニ鑑ミ勞

九



働力ノ保全増強、能率ノ増進ニ特ニ重點ヲ置キ産業報國運動ノ擴充強化ト相俟ツテ勞務管理ノ刷新ヲ圖ルモノトス

第二十五 勞務者特ニ青少年ノ精神ノ陶冶鍛練、紀律ノ訓練、職場外ニ於ケル戰時生活ノ實踐ヲ期スル爲ニ二十歳未滿ノ者ハ可及的ニ寄宿舎ニ收容シテ徹底的指導ヲ行フト共ニ指導擔當者ノ養成、工場家庭間ノ連絡ノ緊密化、健全ナル慰安娛樂其ノ他ノ生活指導施設ノ設置等ノ措置ヲ講ズルモノトス

第二十六 勞務者特ニ青少年ノ體資増強ヲ圖ル爲概ネ左ノ措置ヲ講ズルモノトス

- 一 産業體育指導者ノ養成ノ方途ヲ講ズルト共ニ工場事業場ニ於ケル體育施設ノ標準ヲ定メ之ガ整備ヲ圖ルコト
- 二 工場醫及鑛山醫制度ノ擴充ヲ圖リ勞務者ノ定期健康診斷ノ徹底ヲ期スルト共ニ健康保護施設ノ整備ヲ圖ルコト
- 三 榮養供給施設ノ整備ヲ圖ルコト



四 作業場、作業施設等ニ付保健衛生上必要ナル改善ヲ促進スルコト

第二十七 災害防止ノ徹底ヲ圖ル爲概ネ左ノ措置ヲ講ズルモノトス

一 作業安全装置、作業服等ノ整備改善ヲ圖ルト共ニ危害豫防ニ關スル法規ノ勵行ヲ一層徹底スルコト

二 安全知識ノ普及徹底特ニ新入勞務者ニ對スル安全教育ノ徹底ヲ圖ルコト

第二十八 過勞ノ防止、疲勞ノ回復ヲ圖ル爲労働時間、休日休憩等ヲ

合理化スルト共ニ之ガ爲必要ナル施設ヲ整備スルモノトス

第二十九 女子ノ就職ノ増加著シキ實情ニ鑑ミ特ニ其ノ保護ヲ強化スル爲概ネ左ノ措置ヲ講ズルモノトス

一 女子ノ就業ニ必要ナル諸施設ヲ充實セシムルト共ニ女子ニ不適當ナル職種及職場ニハ就職セシメザルコト

二 妊産婦ノ保護ヲ強化徹底スルコト



三 多數ノ女子勞務者ヲ使用スル事業場ニ於テハ女子タル勞務係員  
ヲ設置シ女子勞務者ノ保護、指導及監督ニ當ラシムルコト

第三十 能率増進ヲ圖ル爲教養訓練、生活刷新、保健衛生、技術振興

等ニ關スル諸方策ノ外特ニ左ニ掲グル方策ヲ講ズルモノトス

一 作業方法、作業工程管理及作業設備ノ改善ヲ一層促進スルコト

二 稼働率優秀ナル者、能率増進ニ付功勞アル者ニ對スル表彰ヲ行

フコト

三 能率増進ヲ指導スル爲巡回指導班ヲ組織派遣スルコト

第三十一 賃金給料其ノ他給與ノ統制ニ付テハ特ニ勞務者ノ生活ノ恆

常性ヲ確保スルコト、勞働ノ生産性ヲ向上スルコト及勞務需給ヲ適

正圓滑ナラシムルコトニ留意シ概ネ左ノ方策ヲ構ズルモノトス

一 未經験勞務者ノ初給賃金ニ關シテハ其ノ統制事業ノ範圍ヲ擴張

スルコト

二 勞務者ノ賃金、給料、俸給ニ關シテハ可及的速ニ適正ナル基準

ヲ設ケルコト



ヲ設定スルコト

三 賃金支給形態ヲ適正化スル方策ヲ講ズルコト

第三十二 労働紛争議ノ豫防解決ニ就テハ産業報國精神ノ昂揚、産業

報國會ノ積極的活動、勞務管理ノ整備充實等ニ依ルノ外要スレバ國

家總動員法第七條ノ規定ヲ發動スルモノトス

第三十三 勞務者住宅不足ノ現狀ニ鑑ミ住宅ノ建設ニ關シテハ附表第

十三ノ計畫ヲ目標トシ之ガ不足ノ緩和ヲ圖ルモノトス

第三十四 農業ニ於ケル勞力ノ合理的使用、能率ノ増進ヲ圖ル爲左ノ

措置ヲ講ズルモノトス

一 農村ニ於ケル中堅青年ノ指導ノ徹底ニ依リ農業報國精神ノ振興

實踐化ヲ圖ルコト

二 作業及施設ノ共同化、共同託兒共同炊事施設ノ擴充整備等ノ方

策ニ依リ能率ノ向上ヲ圖ルコト

三 畜力及機械力ノ積極的利用ヲ促進スルコト

一三



特ニ多數ノ勞力ヲ供出シタル農村ニ在リテハ前項ノ諸方策ヲ強化スルノ外農業ノ支柱タル經營能力ノ保全等其ノ生産力ノ維持増進ニ付積極的の方策ヲ講ズルモノトス

第三十五 商業其ノ他青少年雇入制限令ニ依リ勞務ヲ節減スル業務ニ於テハ特ニ仕入、販賣、配達等ニ付勞務ノ合理的利用方策ヲ講ズルモノトス

第三十六 現行各社會保險ノ適用範圍及保險給付ノ擴充ヲ圖ルト共ニ勞務者ノ長期ニ亙ル生活安定ヲ確保スル爲可及的速ニ保險制度ノ整備充實ヲ企圖スルモノトス

第五章 勞務動員機構

第三十七 勞務動員計畫ノ實施ヲ確保シ其ノ運用ノ圓滑ヲ圖ル爲中央及地方ヲ通ジ勞務行政機構ヲ整備改善スルト共ニ其ノ機能ノ充實刷新ヲ圖ルモノトス

第三十八 勞務動員計畫ノ遂行ニ協力セシムルト共ニ其ノ使命ノ完遂



ヲ期スル爲産業報國運動ノ中央及地方機構ヲ整備擴充シ其ノ機能ヲ積極的ニ發揮セシムルモノトス之ガ爲採ルベキ措置概ネ左ノ如シ

- 一 産業報國運動ヲ指導統制スル強力ナル中央機構ヲ設置シ中央ニ於ケル勞務動員ニ協力スベキ團體ヲ可及的ニ之ニ統合スルコト
- 二 産業報國運動ノ地方機構ヲ一層整備シ之ガ事業ヲ擴充スルコト
- 三 産業報國運動ノ中央及地方機構ヲ勞務監理ノ補助機構トシテ活用スルコト

#### 第六章 勞務動員資料

第三十九 勞務動員ノ資料ヲ整備スル爲概ネ左ノ方策ヲ實施スルモノトス

- 一 職業ノ分析、適性、互換性、女子代替等ニ關スル調査ヲ行フコト
- 二 各産業ニ於ケル標準所要勞務ノ調査ヲ行フコト
- 三 季節勞務ノ現状及需給ニ關シ全般的調査ヲ行フコト